



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：イラクのハーキム SCIRI 議長訪問 (2月3-5日付現地報道)

イラクのハーキム SCIRI 議長がイランを訪問し、モッタキ外相、シャーフルーディ司法権長、ラフサンジャニ公益評議会議長（以上2月3日）、ハッダードアーデル国会議長（4日）、ハメネイ最高指導者及びラリジャニ国家安全保障最高評議会書記（以上5日）と会談した。

1. ハーキム SCIRI 議長発言（3日）

- (1) イラクにおけるイランの20年来の良好且つ建設的立場は重要であり、イラクの現状に前向きな影響力をもっている。イラク情勢が改善すれば、全地域諸国の利益となり、他の近隣国もイランと同様の立場をとるよう期待する。
- (2) 本訪問ではイラクからのメッセージのみを持参した。米軍のイラクでのイラン総領事館員拘束は痛ましい事件であり、イラク政府は彼らの釈放の為、あらゆる努力を行うであろう。
- (3) (米・イラン関係における同議長の仲介の可能性を問われ) 我々イラク人は地域各国への支援を望み、隣国として問題解決に向け努力する。

2. ハメネイ最高指導者の発言（5日）

- (1) イラク国民及び政府が自らの一体性と協力関係を増大させれば、占領軍がイラクに駐留する口実がなくなり、彼らは撤退しなくなるとなるだろう。
- (2) シーア派であろうと、スンニ派であろうと、イラクの無辜の人々が殺害されるのは遺憾である。イラクのあらゆるグループ及び政治勢力は、治安悪化に対抗する為、マーリキー政権を支持すべきである。イラクにおける占領主義者の存在は同国の治安悪化の主要な原因の一つである。

3. モッタキ外相の発言（3日）

- (1) (米国のイラク新政策に関し) 攻撃的アプローチでイラクの治安を確保できない。イランは隣国として常にイラク国民を支援し、国会設立、国民投票による政権発足など様々な段階でイラクの国家造りを支援してきた。イランは決してイラクにとり問題ではなかった。
- (2) イラクの近隣諸国は地域全体の治安確保を願っており、イラク政府が招待した近隣諸国外相会合(3月10-11日)に出席し協力することでイラクの治安確保に大きな一歩を踏み出せるよう期待する。
- (3) (米軍のイラン総領事館襲撃措置につき) 米国は地域における誤った政策を修正すべきであり、イラクの治安維持がマーリキー政権に移譲されるべきである。